

お返しは「ナシ」にしよう！もう悩まない

石巻市佐須浜漁業協同組合婦人部

須田 勝子

1. 地域の概況

宮城県石巻市は、県のほぼ中央東部、太平洋に面した位置にあり、南に突き出た牡鹿半島は南三陸金華山国定公園として風光明媚な景観に恵まれている。三陸沖漁場等の地域資源を生かした水産業が中心の宮城県第二の都市である。

2. 漁業の概要

私達の住む佐須浜集落は、石巻湾に面し戸数42戸、人口178人の小さな漁村である。漁業は、剥きガキ養殖を主体に、刺し網、敷網、小型定置網を営んでいる。

3. 研究グループの組織と運営

私達の婦人部は昭和43年に発足し、現在の部員数は35名である。役員は、部長1名、副部長1名、会計1名と班長4名の構成で、活動費は会費、漁協からの助成金、幹旋品、日用品の販売収益金で運営している。部員の平均年齢は52歳と高齢化が進み新部員の入会も望めない。現在取り組んでいる主な活動は、貯蓄、健康管理、無公害石けんの使用、冠婚葬祭の簡素化、集落花いっぱい運動などである。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

私達の地域は小集落のため、昔から全戸と義理すび（冠婚葬祭のつきあい）をする習慣があって、私達主婦にとって一番頭の痛い問題であった。婦人部を結成した昭和40年代は順調な経済成長によって所得が伸びたが、冠婚葬祭も年々派手になり、そのたびに膨れあがる交際費と、何をお返しするか、その品定めに頭を痛めたのであった。そして、押入いっぱい重ねられた「お返し品」の山を何とかできないものかと誰もが思っていた。それは単に結婚式や法事を簡単にするのではなく、無理をしないで心のふれあうつきあいを願ったのである。そこで役員の方々と何度も話し合いを重ねた結果、集落内だけでもお返し品を廃止する運動をしようということになったのである。早いもので、この運動も26年になるが、浸透するまでには10年もかかったのである。

5. 研究・実践活動状況及び効果

まず始めに、御祝儀のお返し等を徹底的になくすことを決めた。病氣見舞い、出産祝い（第一子のみ御祝儀をする）、新築祝い、入学祝はお返しなしにし、金額は1,000円を目安とした（現在は2,000円）。

しかし、これが定着するまでには、色々と苦勞があり、始めの頃はなかなか守られず、御祝儀のお返しに頂いたお引き出物を、当時の部長と役員の方々が一軒ずつ回収した。今思うと、随分乱暴な手段をとったものとも思うが、当時の部長と役員の勇気ある決断が、今日の成功へと導いたものと思っている。法事のお返しも一切廃止したが、他の地区では廃止していず、他地区から来た人に対しては主旨を理解してもらおうのが難しいの

で、やむなくお返しをしている。結婚式は、ますます派手になってきているようだが、相手の方がいることなので、やむを得ず引き出物を出している。葬式には、その方にとって一生に一度ということもあって、法事の香典返しはあるが、お悔やみ返しはしていない。また、通夜の料理を簡素化し、お寿司等の食べ物や飲物を廃止してお茶菓子程度にしている。

まだまだ大きな改善も実行しなければと思うが、取り決めはしたものの、実践の段階では金銭や家族関係の問題に関わることだけに、心情としてこれでいいのかという心の葛藤などもあり悩みながらの活動であった。時折取り決めを忘れお返しをしてしまう人があり、その度に部員全員で問題を取り上げ確認しあって今日に至っている。

さて、部員の冠婚葬祭費支出状況をみると、昨年一年間に他家へ支出した金額は一戸平均273,151円となっている。支出件数は地区内、地区外ともほぼ同じだが、地区内の金額は定額申し合わせにより約3分の1の95,466円と低くおさえられており、一件当たり金額は2分の1である。さらに自分の家で冠婚葬祭のあった家庭ではそのお返し廃止分を加えると支出軽減に大きく役立っていることになる。また、項目別総額では葬式・法事が一番高く、一件当たり金額では結婚式となっている。件数では、見舞い、祝儀、葬式・法事が多くなっている。地区別支出額を見ると、地区内のおつきあいは、葬式・法事、見舞い、結婚式が高く、他地区とは祝儀、葬式・法事、見舞い、結婚式など全般的に高くなっている。もともとおつきあいは、相手との関係によってきまるもので、一律に金額を申し合わせることの難しさがある。しかし、地域ぐるみで運動を展開することによって、派手になる支出を抑え、何より地区内だけでもお返しで悩むことから解放され、無駄な品物のやりとりをしなくて済むようになったことを喜んでいる。

「お返しナシにしよう、もう悩まない」、このささやかな運動もやっと全戸の足並みが揃い、婦人部の方々にも継続することの大変さを実感してもらえるようになった。この運動が26年間も続けてこられたことについて、私達は次のように話し合っている。まず、佐須浜は42戸と戸数が小さく昔からまとまりが良かったこと、先輩役員の勇気と優れた指導力、そして常に見直しと再確認をしてきたことなどによるものと思う。また、最近は当地区でも若い世代はサラリーマンになり、冠婚葬祭の簡素化はむしろ若い世代から歓迎、支援されている背景がある。

6. 波及効果

私達のこうした取り組みと成果は、他地区や他市町からも注目されるようになり、昭和63年には市内の「冠婚葬祭を考えるシンポジウム」のパネラーとして発表した。平成元年には、石巻町内会が「先進地佐須浜婦人部に学べ」と連合会に加盟する旧市内98町内会約2万7千世帯を対象にチラシを配付し成果を上げている。昨年9月には、西古川地区振興協議会から視察があり、懇談会を持った。西古川地区でも、10年前に新生活運動として取り組んだそうだが、浸透せず下火になり再度4、5年前から始めたということである。地域性や環境によって取り組み方は違うが、成功の秘訣は運動の主旨を理解してもらってまで勇気を持って継続して取り組んでいくことだと自信をもって説明している。こうした私達の小さな集落からスタートした冠婚葬祭簡素化運動が、市内10地区に波及、実践されていることを婦人部一同、大変誇りに思っている。

7. 今後の課題

1) 葬式・法事の見直しと改善

地区内での葬式・法事は前述のとおり負担が大きいので、目下次の点を検討している。まず、現在葬式はお悔やみと香典を支出しているが、どちらか一つに絞りたい。さらにお料理も、昨今は一人前の膳が8,000円前後が多く利用され、食べきれない料理を持ち帰っても、家族が食べてくれるとは限らず無駄がある。料理は食べきれぬ量にして、もっと安価なものにすることを話し合ったが、高齢者層からの反対が強く、もっと根気強く話し合いを重ねてゆく必要がある。また、若い世代に財布を渡す時にきちんと継承してゆきたい。

2) 県全体へ活動の輪を広げて

宮城県漁婦連で取り組んでいる漁村生活の改善の「のし袋」には「お返しのお心遣いは遠慮します」と印刷し、ムリとムダの多い虚礼を廃止し、くらしを豊かにする運動を推進している。宮城県漁婦連に加入している婦人部の皆さんが自らまず実践するようにさらに活動の輪を広げてゆきたい。

現在、佐須浜に復元した慶長遣欧使節船サンファン・パウテスタ号の係留地が建設中である。

私達もサンファンパーク周辺環境美化にと花いっぱい運動を始めた。今から380年も前に伊達政宗の命を受けて太平洋を往復した支倉常長の夢と想いを重ね合わせ、私達婦人部の夢もさらに大きく広げてゆきたい。

冠 婚 葬 祭 費 支 出 状 況

(平成6年、他家への支出のみ)

調査対象：佐須浜漁協婦人部員35名

図1 地区別年間支出額(1戸平均)

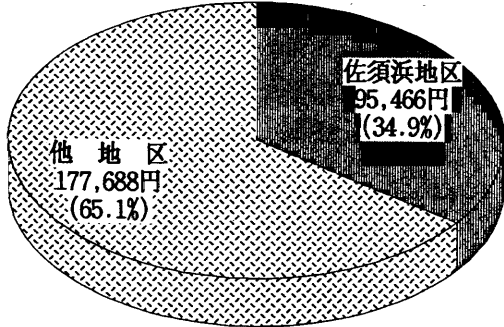


図2 地区別件数(1戸平均)

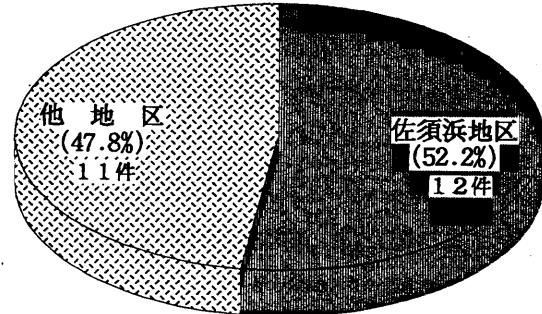


図3 項目別支出額等(1戸平均)

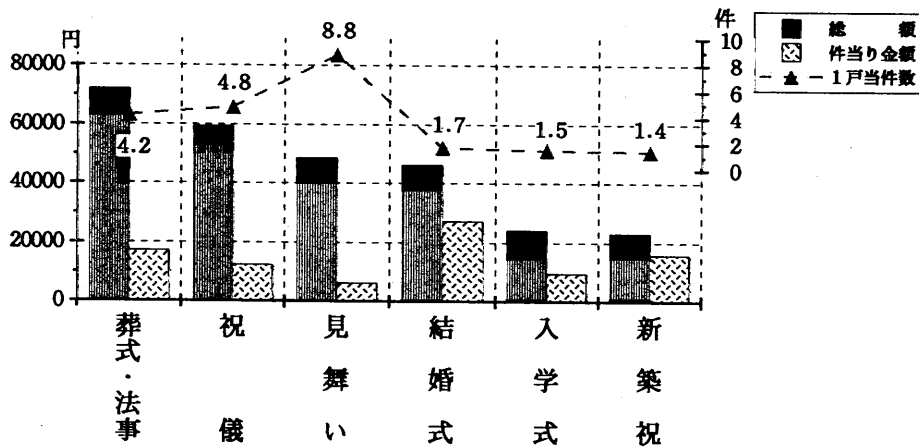
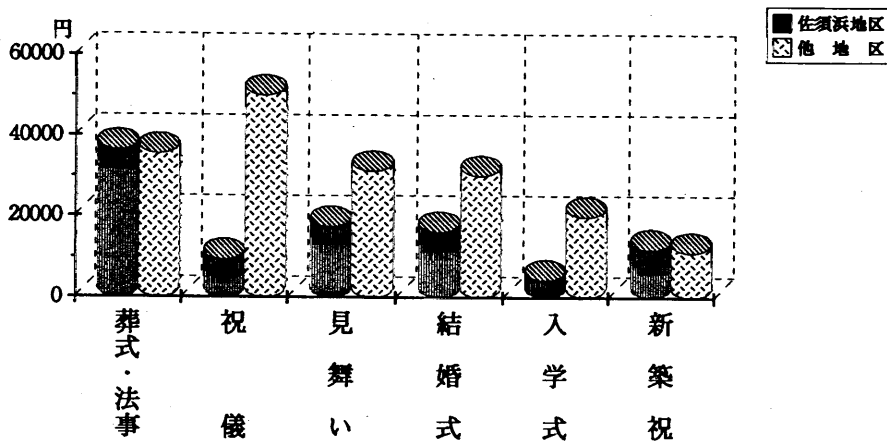


図4 地区別支出額(1戸平均)



冠婚葬祭の合理化へ立ち上る

渡波地区・新生活運動



体験談を交え、意見を述べる

新生活運動の中でも大きな柱となる「冠婚葬祭の合理化」をシンポジウムの

結婚、出産、入学祝いに退院後の快気祝い、冠婚葬祭のたびににお返しに頭を痛める家庭は多々ある。新生活運動について「完全実施に向けて地域みんなでいこう」と渡波地区の主婦たちが、二十七日考える「をテーマに公開シンポジウムを開催。お返しと「快気祝い」は廃止することを決断。お返しと「快気祝い」は廃止することを決断。お返しと「快気祝い」は廃止することを決断。

平成元年(1989年)8月28日 (月曜日)

【月ごの購読料1,450円・1部地り60円(消費税込み)】

10年かけて 簡素化に成功

先進地佐須浜に注目

西古川地区 再挑戦の参考にと懇談

新生活運動の先進地として知られる石巻市佐須浜地区の活動が、全国的に注目されている。佐須浜地区の活動が、全国的に注目されている。佐須浜地区の活動が、全国的に注目されている。



勇気を持って漫透させよう

地域ぐるみで「ノー」お返しへ

2,000円まで

お返しは「ノー」

慶弔費

石巻 婦人が地域ぐるみ運動

石巻の町内会が、「冠婚葬祭の合理化」が目的とした、入学祝いやお返しなどの贈り物を一律三万円以内と決めた。お返しは一切なし。お返しは一切なし。お返しは一切なし。

2万7千戸に 協力呼び掛け

先進地・佐須浜に学べ

「お返しはノー」をテーマにしたシンポジウムが、石巻市で開かれた。お返しは一切なし。お返しは一切なし。お返しは一切なし。



佐須浜「ノー」お返し19年

石巻市町内会研究

平成元年年度石巻市町内会連合会婦人部研究회가六日、石巻市保健相談センターで開かれた。研究会には、婦人部会員二百人が出席。岩瀬マツミ婦人部会長はあいさつで「冠婚葬祭の簡素化が叫ばれている。お返しはノー。お返しはノー。お返しはノー。」と述べた。